様式第１号（第１０条関係）

2023年度業務実績報告書

提出日　　2024年　1月　18日

１．職名・氏名　教授　亀田 勝見

２．学位　文学博士　、専門分野　中国思想史　、
授与機関　京都大学文学部　、授与年月　1999年3月

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習

① 中国語Ⅰ・Ⅱ（各1単位［週2コマ］、毎年開講）　1年生

② 内容・ねらい（自由記述）
初修外国語として中国語の入門を身につけさせる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）
多人数相手ではおろそかになりがちな発音能力の向上と、期末テストまで復習をする意志の低い学生に復習の習慣づけることを目的として、以下工夫を行った。
使用する教科書に対応したWebページを自作。クリック一つで音声を確かめることのできる教材として、授業時間の内外を問わず利用できるようにしている。
毎年授業をLL教室で行う。②の教材を授業中必要な時にいつでも利用できる環境を提供。後期の「中国語Ⅱ」からは、ピンインから簡体字変換するシステムに依存せねばならないパソコン入力の特質を生かし、練習問題の一部をパソコン入力で提出されることを実施した。これにより、発音の基礎であるピンインの学習をおろそかにすることで発音が身につかない学生の能力向上を目指した。併せてFレックスLMSを活用し、学生との密なる連絡や電子教材の提供の便に供した。
昨年度まではコロナ蔓延防止のため積極的な発音練習や対人会話練習をできずにいたが、今年度からは再び積極的に実施できている。
今年度の特記すべき点として、後期からスタートする「中国語Ⅰ」を実施した。年度途中から初修外国語を始められる授業を設けることで、単位取得が思うようにいっていない学生が英語以外の選択肢を持つことができるようにすることが主目的である。時間割上で履修しやすくするため、週2コマのうち片方を対面授業、もう片方をオンデマンド授業とした。これに伴い、授業上の工夫も加えた。対面授業では発音・聞き取り・書き取りなどの実践面の学習を行い、オンデマンド授業では動画教材をまじえた単語・語法解説の学習、およびWeb上に設置した個人の発音練習確認ができる教材を課題に設けた。オンデマンド授業は履修学生の意欲や自主性に大きく左右され、ともすれば宿題と同じ扱いとみなされてしまい教材による学習をせずに次の対面授業に出席してくる学生がいる。その点で、真剣に学ぼうとする意欲の有無が問われることとなり、履修学生の明暗が分かれる。

① 導入ゼミ（1単位、毎年開講）　1年生

② 内容・ねらい
教員の専門である東洋の分野を題材として、大学に入学したばかりの一年生に、大学での資料収集・作成や発表などの基本ルールを身につけさせる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫
授業の序盤では、大学に入って間もない学生のために、大学での学習のしくみや心構え、時間割を埋める作業の補助を行う。これと並行して、教員との連絡の取り方や日本語能力などの基礎スキル養成を実施する。その際、グループを作成しグループ間で作業内容の正否を討論させた上で正誤のチェックを行った。
中盤では、日本語スキル向上の継続を中心に、グループワークで不適当な表現や誤った文章作りなどを自己解決していく面を重視して指導を行った。

終盤では、あらかじめ個々の学生に選ばせていたテーマ発表の準備を行わせた。これと並行して、レポートの書き方やプレゼンテーションの基礎についても、以前と同様グループワークによる解決を中心として指導した。最終発表では、ここまでに指導した内容を踏まえて資料を伴う口頭発表を行わせ、学生からの質疑応答へと進めた。

昨年度までは新型コロナのことを考慮して個人発表にとどめていたが、今年度からはグループ発表に戻している。

① 教養特講 D（台湾の歴史と文化）（2 単位） 1 年生

② 内容・ねらい

台湾を視点の中心として、それを取り巻く東アジア各国の文化・社会と歴史について講義を行い、その複雑多様な文化と日本との関係についての理解を深める。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

遠隔キャンパスでも同時に受講できるよう、ハイフレックス形式の授業にすると同時に、授業の 1/3 程度は小浜キャンパスに出講し、そちらからのハイフレックス授業も実施した。

授業進行はプレゼンテーションソフトによる画面を利用し、そこに動画や音声を貼り付けて講義を行っている。それらすべてを Zoom 上に流し、対面授業に準じた受講ができるようにした。これにより、遠隔キャンパスでの受講という利便性に加えて出席停止となる感染症にかかった学生も自宅で受講でき、文字資料のみよりも理解度を高められるという効果だけでなく、授業で紹介する映画や音楽の実例も同じように視聴しながら学習ができている。

ハイフレックス授業の欠点として、そういった様々な受講形式があるため、授業終わりの課題を本来紙に書き込んで提出してほしいところ、オンライン上での入力にせざるを得ない点がある。パソコンやスマホによる入力は、既存のオンライン情報や他学生が作成した内容のコピー・使い回しを防ぐことが極めて困難なので、正確な評価ができない点が悩みである。

① 学術ゼミ（前期、2 単位、毎年開講）

② 内容・ねらい

中国文化の中で大きな存在である民間信仰・宗教の理解を深める。その手段として、文献による学習はもちろん、現地に赴いて文物および信仰を支える人々の実際を見聞させる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

2015 年度より海外実地研修を織り込んだ授業として授業を組み立てており、コロナ禍で 2 年ほど中断していた海外実習を、今年度から復活した。

中国古代文化、とりわけ道教や民間信仰について現地学習を行うため、その準備として唐以前の漢文古典資料に訓点を施した教材を利用し訳注を作成させた。その入口として、それら漢文資料を利用した漫画も教材に活用している。

実地研修では、台湾の台北・基隆にある民間信仰の各種寺廟をめぐるとともに、故宮博物院の参観も行った。本物の文物と信仰の実際を体験することで中国文化全般の理解を深めた。

帰国後はこれらの結果を成果報告書としてまとめ、Web サービスを用いた写真付きの書籍として完成させる作業を後期に行わせ、その成果を確認して単位認定している。

① 日本の文化と社会（2 単位、毎年開講）

② 内容・ねらい

学術教養センターに属す教員によるオムニバス授業。映画「もののけ姫」をメインテーマとしつつ、各々の専門分野に引きつけて授業を行い、「もののけ姫」に登場する様々な日本文化の要素を理解させる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

作品内に登場する不老不死願望に着目し、不老不死への関心が古今東西に存在すること、日本、とりわけ福井県小浜市に存在する「八百比丘尼伝説」の存在を紹介することを紹介した上で、日本とつながりの深い古代中国における不老不死願望の展開を講義した。

講義では、文芸作品のみならず映画や漫画・アニメなど若者に人気のサブカルチャーに利用されている「不老不死」テーマが多岐にわたり、しかも様々な視点からモチーフとして利用されることを紹介し、学生の関心を高める工夫を行った。

(2)その他の教育活動
LCAP（1 単位） 　中国および台湾の提携校受け入れ先とした、短期語学留学プログラム。事前指導と現地視察を行う（往復の付き添いなどは行わない）。 　通常は夏休みの 9 月上旬から中旬にかけて学生を現地に派遣するが、新型コロナ蔓延に伴う渡航困難な状況が影響し、2020 年度から 3 年連続で現地派遣ができていない。しかし 2021・2022 年度は代替措置として、年度末の 3 月にオンラインで高雄科技大学との中国語交流イベントを実施した。2023 年は 3 月 8 日～22 日の二週間。参加者は 5 名だった。 　相手校の学生は日本語を専門とする 3～4 年生で日本語能力が比較的高く、こちらの中国語初級レベルの学生たちは彼らに日本語を交えた会話で助けてもらえるよう、本学の学生一人につき数名の相手校学生という構成でグループを作成した。 　教員から提示された複数の課題を、Zoom を通したグループワークでこなし、最終発表では中国語を使って双方の国や地域の文化を紹介しあうことができた。また、中国の流行歌を中国語で歌うことも最終発表で行い、相手校に大変喜ばれた。

４．研究業績

(1)研究業績の公表
①　著書 【　０本】
②　学術論文（査読あり） 【　０本】
③　その他論文（査読なし） 【　０本】
④　学会発表等 【　０件】
⑤　その他の公表実績 【　０本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
なし。研究を進める上で外部資金まで必要としないため、応募していない。
(3)特許等取得
(4)学会活動等
・日本道教学会理事　2022 年度～ ・『王勃集』読書会（宇佐美文理代表） 　訳注作成を主目的としており、一定の範囲を終了させた段階で成果報告を出す予定 　年度内に 1 回程度、訳注案作成を担当した。2021 年度から新型コロナ関連で休会中。 ・「道教思想研究会」読書会（金志玹代表） 　訳注作成を主目的としており、一定の範囲を終了させた段階で成果報告を出す予定 　年度内に 1 回程度、訳注案作成を担当した。オンライン会議で月 1 回開催。

５．地域・社会貢献

・福井県漢詩人協会会長の川口義夫氏が手掛ける、松平春嶽の漢詩集訳注作成と出版に向けた作業の協力。長年にわたり川口氏が作成してきた福井県ゆかりの春嶽公詩集の訳注について、亀田からは漢文の専門家という立場から複数年にわたる助言・訂正を行っているが、今年度からは書籍化に向けた作業に入った。そのため、データの入力および校正のため、アルバイトも雇ってデータの入力とチェックを行っている。今年度は全原稿のうち 3 分の 2 程度をデータ化できる見込み。
・本学のサークル「fpu 太極拳サークル」を主催。 サークル顧問であるとともに、学内外の学生・教員・留学生および一般人を広く招き、太極拳を指導。4 月からは所属学生が小浜キャンパスに移ったため、従来の週 2 回活動が 1 回に減少し、社会人サークルという形で継続中。

６．大学運営への参画

(1) 補職
・学術教養センター センター長補佐
(2)委員会・チーム活動
・時間割・共通科目検討協議会メンバー
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など
・教務カリキュラム委員会（部局内活動） ・英語以外の外国語を担当する教員（自分以外は非常勤講師）の取りまとめ役 ・留学生（特に台湾）の相談役